



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法に関する 調査研究 (2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-11-28 キーワード (Ja): 学校教育, 小学校, 指導方法, 鍵盤ハーモニカ, 創作, 技能, 評価 キーワード (En): 作成者: 仲田, 久美子, 沖田, 由香 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/89019

小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法に関する調査研究（2）

Instructions for method of teaching children in the first grade of elementary school how to play keyboard harmonica（2）

仲田 久美子 / 沖田由香*

NAKADA Kumiko / OKITA Yuka*

[キーワード Keyword]	学校教育, 小学校, 指導方法, 鍵盤ハーモニカ, 創作, 技能, 評価
[所属 Institution]	岐阜大学教育学部 (Faculty of Education, Gifu University)
	岐阜大学教育学部附属小中学校* (Faculty of Education, Gifu University)

[要 旨 Abstract]

本研究は、小学1年生が鍵盤ハーモニカの演奏を学習する際の指導法について述べた拙論「小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法に関する調査研究」の続きである。本研究では、鍵盤ハーモニカの授業に対して小学1年生の児童がどのような気持ちで取り組んでいるのか実際の様子を把握するために、教材曲『なかよし』に関するアンケートを実施し、その回答結果を集計した後、分析を行っている。今回、『なかよし』の演奏習得後に鍵盤ハーモニカを用いた「創作」に取り組んだ。その「創作」の活動の概要と活動後の児童達による感想もまとめている。そして、最後に鍵盤ハーモニカの評価の実施について報告し、鍵盤ハーモニカの単元のまとめとして、今後の小学1年生における鍵盤ハーモニカ指導法の提案をしている。

1. はじめに

本論では、岐阜大学附属小中学校の小学1年生の児童に対する鍵盤ハーモニカ指導の導入を経た「次の段階」の指導法について述べている。ここで言う「導入を経た」とは、鍵盤ハーモニカの楽器の設置方法や片付け方、手の置き方、手の形、指の置き方、鍵盤上での「どれみふあそ」の位置の確認が済んでいる、という意味である。研究方法については、共同研究者である沖田が授業を実施し、筆者が記録をとり、まとめるという方法であった。期間は2021年11月中旬から12月初旬までの約1カ月間であった。

本研究では、教材『なかよし』の指導において留意したいポイントを再考した後、小学1年生の創作活動の可能性、及び指導法について考察している。

研究の手順は、まず、教材『なかよし』に関するアンケートを作成し、配布して実施、回収後、アンケートの回答結果をまとめ、次に、そのアンケート結果を踏まえ、児童の問題解決のためにどのような指導法が有効であるか考察している。そしてその次に、前回のアンケートで「自分で曲を作りたい」という意見が多かったことも反映させ、「創作活動」を実施した。創作活動については、小学1年生が手順で戸惑わないよう、沖田が活動のための「おながくづくり」というプリントを配布した。この自由記述式のプリントには創作活動の手順が書かれているだけでなく、児童の意見を記入する欄もある。今回は、この自由記述欄を分析した。そして最後に、小学1年生の鍵盤ハーモニカについて、評価の方法を報告し、今後の小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法の可能性についてまとめている。巻末には、アンケート結果一覧表、及び『なかよし』に関するアンケート用紙を掲載している。

2. アンケート実施について

前回、「小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法に関する調査研究」（岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究・教師教育研究 第24巻 2022）では、「家庭での習い事でピアノ等の鍵盤楽器を習っていない者」と「習い事でピアノ等の鍵盤楽器を習っている者」とを比較して、クラスという集団の中で授業を実施する際に、実技が不得手な児童に対してどのように指導ができるのかについて考察した。そのため前回は、特に鍵盤楽器の未経験者に焦点を当てていた。しかし、今回は導入期を経ており、既に多くの児童が鍵盤ハーモニカの基礎的な演奏を習得できていたので未経験者には焦点を当てていない。

アンケートは岐阜大学附属小中学校の小学1年生の児童94名（全3クラス、1学年95名在籍、アンケート実施日に1名欠席）に協力してもらい、その回答を分析した。使用した教科書は、教育芸術社の「小学生

のおながく 1」である。題材は、「鍵盤ハーモニカの演奏」で、「どれみと なかよく なろう」及び「せんりつで よびかけあおう」を主に、その他「はくを かんじとろう」及び「はくによって リズムを うとう」、そして「みの まわりの おとに みみを すまそう」の要素も含んで構成された。使用した教材名は、『たのしく ふこう』鹿谷美緒子 作詞／作曲 (p.34)、『どんぐりさんの おうち』(久野静夫 作詞／市川都志春 作曲) (p.36)、『どれみで あいさつ』(安西薫 作詞／長谷部 匡俊 作曲) (p.38)、『なかよし』(海野洋司 作詞／佐井孝彰 作曲) (p.40) である。飛沫感染予防の観点から、マスク着用のまま歌う「歌唱担当」と「鍵盤ハーモニカ演奏担当」とを分割して授業を実施した。

今回のアンケートは、教材『なかよし』を、ほとんどの児童たちが休符が正しく数えられ、正しく演奏できるようになった後に実施した。いずれのクラスも、沖田が口頭で読み上げながら実施し、1問にかかる回答時間は約 30 秒であった。今回のアンケートで把握したかった事は、教材『なかよし』を「どのような点に難しさを感じ、どのような気持ちで演奏し、授業を受けていたのか」という点である。児童がアンケートに答えやすいように設問は黒字で、児童が回答する箇所を朱書きにし、カラーコピーで配布して実施した。そして、アンケート用紙の冒頭タイトル部分の「1 年生」の算用数字部分の色を 2 色にして男女別属性を予め分けて配布した。巻末「11. アンケート用紙『なかよし』について」にアンケート用紙を掲載している。

この『なかよし』という曲の中には、既習曲「どれみであいさつ」と同様の旋律が使われている。同様の旋律の箇所に下線、波線をつけて見比べてみる。※音符はどれみふぁそ、休符は・で示す。「・・・」の部分は鍵盤ハーモニカのパートの「休符」を表している。

『どれみであいさつ』

どれみ・ | みれど・ | れどれみ | どみど・ ||

『なかよし』

どれみ・ | | れみふぁ・ | |

みふぁそ・ | | そふぁみれ | どみど・ ||

以上のように、『なかよし』で新しく習得する指のうごきは、「れみふぁ」(右手 2、3、4)と「みふぁそ」(右手 3、4、5)と「そふぁみれ」(右手 5、4、3、2)である。そして『なかよし』の 2 小節目と 4 小節目、及び 6 小節目にある 4 つの連続した休符(鍵盤ハーモニカのパートは休符であるが、歌唱のパートは休符ではない)も新しい要素である。

コロナ禍であることから、「鍵盤ハーモニカを吹く児童」と、「歌唱を担当する児童」とを分割して授業をすすめたが、それ以外の理由として、『なかよし』という教材では、1 小節目でマスクをはずして鍵盤ハーモニカを吹き、次の 2 小節目で歌唱のためにマスクを着用するということに手間がかかってしまう、という理由もあったと考えている。鍵盤ハーモニカが不得手な児童にとっては、より一層演奏に集中できるよう、今回実施したように鍵盤ハーモニカを吹く係と歌唱を担当する係とを分割して取り組むのがよいと感じた。

児童の様子については、初めは、鍵盤ハーモニカを担当する児童が休符をきちんと数えて待ち、楽譜の通り正しく演奏することが難しそうに見受けられた。しかし練習するうちにほとんどの児童が休符を待てるようになっていった。ただ、休符の待ち方があいまいだったり、休符を待ち過ぎてしまったりする児童もあり、そのような児童は休符の次のパッセージで正しい拍で入れないことがあった。そこで、休符に慣れるまでの間、沖田は、

- ① 手を開いて鍵盤ハーモニカにおいておくこと、
- ② 鍵盤ハーモニカ担当の人は、うたの部分で待っているときに手を鍵盤上から上げてしまわないこと。
- ③ 「ど」の鍵盤の上に右手の親指、「れ」の鍵盤の上に右手の人さし指、「み」の鍵盤の上に右手の中指、「ふぁ」の鍵盤の上に右手の薬指、「そ」の鍵盤の上に右手の小指を置くこと。

等、休符の待ち方、準備の方法について指示をした。

以上のような指導を受けながら児童達は『なかよし』を習得していった。指導のポイントは「運指の定着」、「手の形を安定させる」、「休符を待つ」ことなどであったが、小学 1 年生においては、やはり「運指の定着」が重点的な指導のポイントであったと思われる。ほとんどの児童が一通り演奏できるようになったのを見届けた後、2 回目のアンケートを実施した。アンケートの質問内容の設定の目的は、曲中に出てくる難しい箇所を探り、児童がどのような点でつまづきやすいのかを探るためであった。

3. アンケートの設問と、回答結果

アンケートの集計結果一覧表は、「10. 各クラス的人数分布一覧表」に掲載している。ここからは、アンケートの各設問の回答の結果を示し、分析していく。

設問1(ちょうちょのマーク)では、『なかよし』の旋律のうち、実際に鍵盤ハーモニカで演奏する部分のどの部分が難しいと感じるか質問している。どこも難しいと思わない場合は記入しなくてもよいと指示したため、無記入が94名中39名いた。その割合は全体の約42%にあたる。そして「そふぁみれ」または「そふぁみれ | どみど・」の部分挙げている児童が23名おり、全体の約24%であった。その他「れみふぁ・」の部分挙げた児童が94名中13名おり、約14%にあたる児童にとって難所であることが分かった。この2ヶ所は、休符の直後のパッセージであることと、すぐに鍵盤の位置が分かる「ど」の位置から開始されていない点が旋律の特徴と考えられる。

この2つの難所をクリアするために、上記で示した沖田の指示の他に、教科書の中にも掲載されている「まねっこ」(教師が吹いたもの、もしくはドレミで指示した旋律を児童が同じように鍵盤ハーモニカで演奏する)が有効ではないかと考える。「まねっこ」を何度も繰り返すことで「咄嗟の位置の変更」に対応できるようになり、特に「ど」以外の音から開始される旋律を繰り返し出題すると更に効果が得られるのではないかと予想する。例えば「れみど・」(右手2、3、1)や「ふぁそふぁ・」(右手4、5、4)等である。「まねっこ」では児童が瞬時に判断をしなくてはならないため、自宅での習い事で鍵盤楽器を習っており、割とたやすく教材が演奏できた児童にとっても刺激が得られるのではないかと期待する。逆に鍵盤ハーモニカが不得手な児童にとっても、「まねっこ」のような遊びの感覚を含む訓練であれば、楽しみながら鍵盤の位置と音名を一致させていくことができるのではないか。「まねっこ」の活動を反復することで『なかよし』の休符の直後のパッセージが少し楽になるかもしれない。

次に、設問2(花のマーク)では、弾きにくい(動かしにくい)指について質問した。この設問に対して94名中約26%の児童が「動かしにくい指はない」と回答した。弾きにくい指は、回答が多い順に、⑤こゆび(27名)、④くすりゆび(21名)、③中ゆび(13名)、①おやゆび(7名)、②人さしゆび(1名)であった。※1名の児童がすべての項目を囲むように1つの大きな丸を書いていたが、アンケート用紙では「1つまるでかこんでください」としていたため、この回答は計算から除いた。この設問の回答結果については、設問1の回答「そふぁみれ」または「そふぁみれ | どみど・」の部分挙げた児童が23名いたことと一致していると言える。約24%の児童が休符直後の右手5の小指を使いにくいと感じているのだが、これは鍵盤ハーモニカを弾く手の形の崩れが原因ではないかと推察する。今後、この右手5の小指の弾きにくさを解消するために、引き続き「ブロックのせ」(右手の手の甲の上に算数で使用するブロック教材を1つのせて手のぐらつきやばたつきを軽減させる狙いをもつトレーニング。「小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法に関する調査研究」に掲載)を用いて演奏することや、座り方の見直し(鍵盤ハーモニカを体の中心より少し右側に設置し、背筋を伸ばして構える)についても実施していけるとこれらの点について改善できそうである。

そして、設問3(かたつむりのマーク)では、前回のアンケートでも質問の項目にあった「演奏時に何を大変だと感じているか」について質問した。94名中29名の児童、全体の約31%が「④いきをふいておとをだすこと」を大変だと感じていることが分かった。そして24名の児童、全体の約26%が「②はやいテンポでえんそうすること」と回答した。これらのことから、小学1年生にとっては、「指を正しく動かすこと」よりも、「息を吹き込む動作のほうが大変」ということが分かった。その他、「①みんなにあわせてえんそうすること」は94名中11名、「③じぶんのゆびがおもったようにうごかないこと」及び「⑤うたのところをまつところ」は94名中7名ずつが大変だと感じていた。そして、「⑥その他」と回答した児童の回答では「うんのときにくちからいきがでてしまう」という意見や、「おそいテンポでえんそうすること」という意見が書かれていた。※設問2で複数回答していた児童がおり、その児童がこの設問でも項目を囲むように1つの大きな丸を書いていた。この設問でも「1つまるでかこんでください」としていたため、この児童の回答は除くことになったが、貴重な意見の1つである。

そして次に、前回のアンケートと同様の質問である設問4(りんごのマーク)では、鍵盤ハーモニカを演奏することをどのように感じているか質問した。94名中68名の児童、全体の約72%が「とてもたのしい、だいすき」と回答した。逆に「つまらない」と回答した児童が3名いたことも書き添えておく。

前回のアンケートと同様の質問である設問5(ベルのマーク)では、これから先、鍵盤ハーモニカの授業でどのようなことに挑戦してみたいかについて回答してもらった。この設問だけは複数に回答できるようにした。回答が多かった順に、「②ほかのいろいろながっきといっしょに、にぎやかにえんそうしてみたいな」

(65名)、「①もっとむずかしいきょくにもちょうせんしてみたいな」(67名)、「③けんぱんハーモニカで、じぶんだけのきょくをつくってみたいな」(58名)、そして最後が「④ほかの子のえんそうをきいてみたいな」(48名)であった。複数回答のため合計が238名分(238票)となり、それは1人当たり2つ、もしくは3つの項目に丸をつけたということである。このことから、鍵盤ハーモニカの授業に対して肯定的に取り組んでいた、と解釈してよいと言える。

そして、最後の設問である設問6(ひよこのマーク)は、今回のアンケートに初めて載せた項目である。右手の絵に指の番号を振り、数字を記入する、というもので、ここでは「1、2、3、4、5」と記入することを狙いとしていた。94名全員が左記のような回答をし、中には丁寧に「ど、れ、み、ふぁ、そ」と併記

する児童もいたが、音名だけを書いた児童はいなかった。このことから、全員、指の番号は覚えたと考えてよいと思われる。以上が小学1年生の教材『なかよし』についてのアンケート結果と分析である。

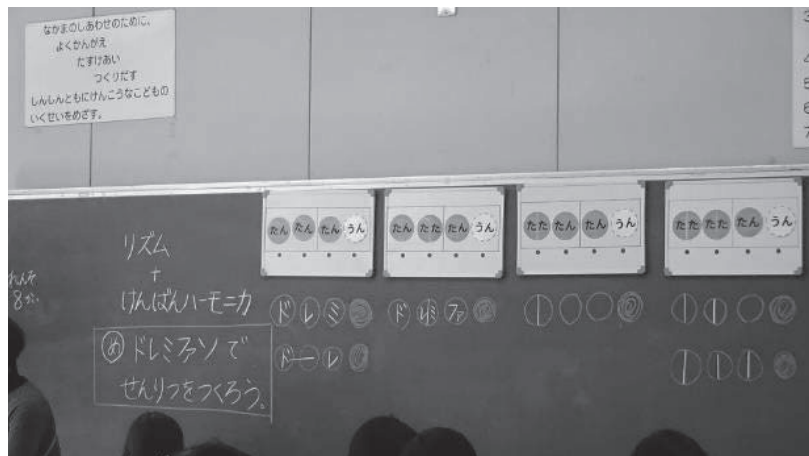
4. 鍵盤ハーモニカを用いた小学1年生の創作活動について

授業はこの後、鍵盤ハーモニカを用いた「創作」へ進んだ。まず沖田が創作活動の手順を児童達に説明するためにA4サイズの「おながくづくり」というタイトルのプリントを配布した。手順は「1. ペアでつないで、けんぱんハーモニカで、おはなしをしているように、してみよう。」「2. おなじれつの人と、つないでみよう。」「3. やって見て どうだったかな。かんそうを かこう」というものである。

手順の説明については、最初に「たん、たん、たん、うん」というリズムの確認をし、その後、「たん」(四分音符)を半分に割って「たた」(八分音符2つ)に分割してもよい、という説明を加えた。また、使える音は「ど、れ、み、ふぁ、そ」ということを伝え、その後、児童が自分で考えた音を記入するための用紙を配布した。1人につき最大4つの組み合わせを作成できることを説明し、児童は自分のペースで、思い思いの音を、実際に吹いて考えながら自分なりの音やリズムを紙に記入していった。下記の板書にもあるように、ある児童から発案された「のぼすおと」も含めてよい、とした。

その後、1人ずつ自分が書いたものを練習した後、最初に、2名ずつのペア活動で自分以外の人と演奏することに挑戦した。この時点で、拍を前の人から引き継いでスムーズに演奏をつなぐことが難しそうな児童の姿がちらほら見られたり、自分だけで練習していた時にはできていた演奏が2人になった途端にできなくなってしまったりする姿が見られた。

後日、4~5名ずつのグループに分けてつなげてみる活動を実施した。ほとんどの児童が自分の作った作品を決められた順番に沿って演奏することができたように見受けられた。



2021年12月2日撮影 「創作」の授業にて

以上が終了した時点で、沖田が手順を説明するために児童に配布していた「おながくづくり」のプリントの3項目「やって見て どうだったかな。かんそうを かこう。」の記述のための時間を設けた。

5. 「おながくづくり」のプリント記述内容について

自由記述式であったにもかかわらず、全員が鍵盤ハーモニカでの創作活動について自分の言葉で振り返ることができ、中には今後の展望を記述している児童もいた。これらの記述内容と、実技試験を鑑みて総合的に判断し、評価した。評価方法、及び評価の視点については後程述べることにし、以下、自由記述の内容を紹介する。自分の気持ち、感想を述べた振り返りが1番多く、使われていた言葉は次の通りであった。

たのしかった、よかった、うれしかった、おもしろかった、きもちよかった、
いいかんじだった、すてきでたのしかった、わくわくした、ふしぎなすてきな、
びっくりする、めずらしいたのしいおと、たのしくてあったかいかんじで

次いで多かったのは、他の誰かと1つの作品を作り上げることについて記述した意見で、次の通りである。

つなげる、つなげて、つなぐ、いっしょに、みんなで、あわせて、あわせる、
2人で、4人で、おおくのひと、いっぱいの人と、ペアで

「ふしぎな」や「びっくりする」という言葉については、「ふしぎなおんがくができてたのしかった」という意見や、「ふしぎなすてきでうれしいかんじのきょく」(原文のまま)という記述が「興味関心がある」と解釈できるのではないかと推察したからである。その他、興味深い記述は下記の通りである。(全て原文のまま転記掲載する)

つなぎ方や順番について記述したもの

「いいきれいなおとをさいごにしたらびっくりになった」(1年2組)
「じゅんばんがよくて、ころもいいかんじでやさしいおとだからすごいきもちよかったし、きれいなおとだったし、たのしかった。」(1年1組)
「まだ「ソ」で終わっていたのでほかのはんともつなげてもっとたのしいきょくにしたいです。」(1年3組)

上記のように、「誰の作品をどの順番で配置してつなげるとどのようになるのか」という視点を持って構成しようとしている姿は興味深い。更に、

音楽の要素について記述したもの

「ゆっくりなおとはやいおとでつながってうたができてうれしかったです。」(1年2組)
「おとが、たかくなったり、さがったりして、たのしかったです。」(1年1組)

上記で述べられている「ゆっくりなおとはやいおと」とは、四分音符を基準として二分音符を「ゆっくりなおと」と表現し、逆に八分音符のものを「はやいおと」と表現しているとみられる。「たかくなったり、さがったり」というのも自分以外の人が自分と違う発想で作った作品を演奏したことが新鮮に聴こえ、楽しく感じられたものと推察する。

創作活動の過程を振り返り、記述したもの

「いろいろおしえあってはなしあいをしていいきょくをつくった 2たりよりもながかった」(1年3組)

上記の記述からは、出来上がってつながった音楽作品について述べられているわけではないが、児童達には得るものが多かったことが伺えるし、「音楽科の授業ならではの交流」ができたのではないかと推察する。

94名の様々な感想から、小学1年生の鍵盤ハーモニカの創作活動への興味関心の高さを感じることができた。また、「せんりつでふたりでもたのしかったけどグループでつないだらもっとたのしくなった。つないだらわくわくするきょくになった。」(1年2組)という意見を書いている児童がいた。この意見から筆者は、技能だけを高めるのではなく、また知識だけを与えるのではなく、児童自身が自発的に、主体的に活動できるような環境や空間、そして雰囲気を作ることの大切さを再確認した。

6. 評価方法

最後に、この単元の評価方法を紹介する。(記録: 2021年12月22日、4時間目、1年3組)
この日はいつも通り、体で拍を感じ、リズムに乗る遊びをした後、既習曲である『どんぐりさんの おうち』、『どれみで あいさつ』、『なかよし』の3曲を復習した。「今日は1人1人の演奏を聴かせてもらおうと思います。どれみふぁそ、正しい指、シールがなくてもできますか?」という沖田の呼びかけの後、『どれみで あいさつ』、『なかよし』、そして「まねっこ」を演奏してもらい、1名ずつ評価する、という方法で実施した。伴奏の音源を鳴らしている間、児童達はその音源に合わせて演奏していき、沖田が机間をまわり評価していた。「教科書を見たい人は見て下さい。」という指示も加えた。児童の演奏を一通り聴き、評価し終えた後、「最後にみんなでスピードアップして弾いてみよう」と声をかけ、全員で『どれみで あいさつ』、『なかよし』を演奏して試験を締めくくった。

筆者は評価に携わっていないのだが、観察した限りでは、間違えても途中から立て直すことができる児童が増えたことが印象的であった。練習の当初は一度間違えると途中から参入できない児童が多かった。それに比べると大きな進歩が感じられた。また、児童自身が自分の苦手な箇所を具体的に自覚できたり、改善しようとしたりする姿が見られたことも良い姿だと思った。

7. まとめ

以上、小学1年生の鍵盤ハーモニカの導入から実技試験、及び振り返りまでを通して観察してきて、今後も「まねっこ」の活動や「創作」を適宜取り入れ、また、手の形の崩れをなるべく減らせるようなトレーニング等も併せて実施していけるとよいと感じた。

8. 引用文献

仲田久美子・沖田由香「小学1年生における鍵盤ハーモニカの指導法に関する調査研究」、岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究・教師教育研究 第24巻 (2022) pp.77-86

9. 参考文献

『小学生のおんがく1』(2020年) 教育芸術社

『小学生のおんがく1』教師用指導書 実践編 (2020年) 教育芸術社

『小学生のおんがく1』教師用指導書 研究編 (2020年) 教育芸術社

10. 各クラスの人数分布一覧表

設問	回答内容	1組 男子 16名	1組 女子 15名	2組 男子 15名	2組 女子 16名	3組 男子 16名	3組 女子 16名	男子 全体	女子 全体	学年 全体
1	れみふあ	2	4	5	1	1	0	8	5	13
	みふあそ	1	0	0	1	0	0	1	1	2
	そふあみれ	4	3	2	3	2	1	8	7	15
	そふあみれ どみど・	1	0	1	5	1	0	3	5	8
	そふあみれの「ふあ」だけ	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	どみど・	1	1	1	2	4	4	6	7	13
	どみど・の「み」だけ	0	0	0	0	2	0	2	0	2
	無記入	5	7	6	4	6	11	17	22	39
	複数回答	1	0	0	0	0	0	1	0	1
2	①	2	0	0	0	4	1	6	1	7
	②	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	③	0	4	5	2	1	1	6	7	13
	④	3	4	3	7	2	2	8	13	21
	⑤	6	4	2	4	6	5	14	13	27
	無記入	4	3	5	3	3	6	12	12	24
	複数回答	1	0	0	0	0	0	1	0	1
3	①	3	1	1	3	1	2	5	6	11
	②	4	3	4	6	5	2	13	11	24
	③	2	0	1	1	2	1	5	2	7
	④	5	3	6	5	2	8	13	16	29
	⑤	0	3	2	1	0	1	2	5	7
	⑥	0	1	0	0	1	0	1	1	2
	無記入	1	4	1	0	5	2	7	6	13
	複数回答	1	0	0	0	0	0	1	0	1
4	①	12	12	9	10	10	15	31	37	68
	②	2	1	4	5	5	1	11	7	18
	③	1	2	0	1	1	0	2	3	5
	④	1	0	2	0	0	0	3	0	3
5	①	9	9	9	13	13	12	31	34	65
	②	11	12	9	13	9	13	29	38	67
	③	9	7	7	14	10	11	26	32	58
	④	7	8	7	11	6	9	20	28	48

11. アンケート用紙『なかよし』について

※アンケート実施の際は、A3用紙で見開き1枚にしてカラーコピーで配布した。

1年生 おんがく けんぼんハーモニカ

みんなのこまっていること、ちょっとむずかしいな…とおもっていることなどを おしえてください。

🦋:「なかよし」を ひくとき、あなたが むずかしいとおもうのは どこですか？

1つ まるで かこんでください。

※●は おやすみ、うん、のところです。| (せん)をまたいで まるでかこつても よいです。

※まるは どのくらいの大きさになっても よいです。

み ふあ
れ み
ど ● | ふいてみよう● | ● | あそぼうよ● |

そ ふあ
み ● | なかよくね● |

そ ふあ
み れ | み ど ● ||

🌸:「なかよし」をひくときにつかう5本のゆびについて、あなたが 1 ばんうごかしに
くい とかんじるのはどのゆびですか？ 1つ まるで かこんでください。

①: おやゆび ②: 人さしゆび ③: 中ゆび ④: くすりゆび ⑤: こゆび

🐼:「なかよし」を えんそうするとき、あなたが「たいへんだな…」とおもうのは、
つぎのどれですか？1つ まるで かこんでください。

①: みんなにあわせて えんそうすること

②: はやいテンポで えんそうすること

③: じぶんのゆびが おもったように うごかないこと

④: いきをふいて おとをだすこと

⑤: うたのところを まつところ

⑥: そのた (りゆう:)

つづきます 📄

👤: あなたは けんばんハーモニカ をえんそうすることが、

- ①: とてもたのしい、だいすき。
 - ②: まあまあ すき。
 - ③: なんともおもわない、ふつう。
 - ④: つまらない。
-

👤: これからさき けんばんハーモニカのじゅぎょうで あなたは、

- ①: もっとむずかしいきょくにも ちょうせんしてみたいな。
 - ②: ほかのいろいろながっきといっしょに、にぎやかに えんそうしてみたいな。
 - ③: けんばんハーモニカで、じぶんだけの きょくを つくってみたいな。
 - ④: ほかの子のえんそうを きいてみたいな。
-

👤: これは右手の「え」です。

ゆびにばんごうをつけます。下の「え」にかき入れましょう。



ごきょうりょく ありがとうございます。 ぎふだいがく なかだ くみこ
